

令和6年8月18日（日）

第13期Aコース研修生 「日本の近現代史①」

事前研修「日本の近現代史」は、留学先国と日本との歴史的関係について理解を深め、留学先国で出会う様々な人に対して互いの立場を尊重しながら、臆することなく自国の説明ができるようになることを目的としています。次世代リーダー育成道場の修了生から、「留学先で近現代史に関する質問を多く受けた」「留学先国と日本との歴史的な関係を知っていてよかった」など多くの感想が寄せられています。8月19日（日）に第1回「日本の近現代史」を通じて、研修生たちは「日本の近現代史学習に当たって～歴史的事象を考察するための観点～」及び「近代国家日本の成立～開国から日清・日露戦争まで～」を学びました。研修生は事前学習として、この時代に関する動画を視聴し、それを踏まえて事前課題を複数の資料で調べ、自分の考えをまとめました。

事前課題1は、「現代的な諸課題に関わる日本の近現代の歴史的事象を取り上げ、『自由・制限』、『平等・格差』、『開発・保全』、『統合・分化』、『対立・協調』などの観点から、その歴史的事象と現代社会に共通する課題を追究する」というものです。

事前課題2は、「明治時代、我が国は欧米列強の植民地になることなく近代国家としての道を歩んだ。近代国家への歩みやその中で創造された日本文化を捉え、留学した際に出会う人々からどのような『問い』が出されると考えるか、また、それをどのように説明するのか、先の5観点などを踏まえて考える」です。

研修生は3クラス（1クラス22人程度）に分かれ、各クラスで4～5人のグループになり、各自が取り上げたテーマ（事前課題2）を発表し、グループ協議を行いました。グループ協議の内容は全体でも共有し、更に協議を深めました。協議ではiPadを有効に活用し、我が国の近代化の過程における人々の努力や苦労、成果や課題などについて積極的に協議し、知見を深めることができました。



令和6年8月18日（日）

第13期研修生Aコース及びBコース 「リーダーシップ②（交流研修）」

8月18日（日）午後に13期Aコース及びBコース合同で、「リーダーシップ②」の研修を行いました。この研修では、次世代リーダー育成道場修了生11人と、世界で活躍する方々（社会人ゲスト）7人に参加していただき、留学を通じて何を学び、どのような力を身に付けるのか、また、将来の進路選択をどのように捉えていくのかなどについて考え、研修生が将来のビジョンをより明確に描けるようになることを目的としています。

前半は、社会人ゲスト3人によるパネルディスカッションを行いました。自己紹介を通じ、留学生活や海外での経験が現在の生き方にどのようにつながっているのか、今の仕事を通じて世界をどのように見ているのかなど



のお話を聞くことができました。

後半は、コースごとに8人程度のグループに分かれてワークショップを行いました。最初のワークショップでは、グローバル社会でSDGsの様々なテーマに関わる活動に携わってきた社会人の方のお話を聞きました。学生時代の話から今に至る変化のきっかけなど、これまでの生き方に関するお話から、研修生は自らの可能性に気付き、より大きな未来を描くきっかけになりました。



その後のワークショップでは、留学を終えた修了生がメインスピーカーとなり、留学中のエピソードを語ってもらいました。修了生や社会人ゲストのお話を通じて、研修生はこれから始まる留学生生活をより具体的にイメージすることができるようになりました。また、修了生にとっては、自分の体験を話すことで、体験から得た価値を言語化する機会にもなりました。

これから留学しようとする第13期研修生と、様々な留学経験を積んできた修了生や社会人ゲストとの非常に有意義な交流の機会となりました。